

〔選択科目：整形外科〕

1．研修内容

整形外科的に多い疾患の診断、初期治療を研修する。研修期間は1ヶ月だが、最長8ヶ月まで可能である。主に病棟での診療を研修する。理学所見のとり方、処置ができるようにする。また、主治医とともに患者さんに対する説明等にも同席し、接し方等を学ぶ。手術にも立ち会い、考え方、理論を理解すると共に、簡単な外科的処置、救急外来での対応を経験する。

2．一般目標

整形外科的に多い疾患の診断、初期治療もしくは初期対応ができる。

3．行動目標

基本手技：注射法、局所麻酔、関節穿刺、皮膚縫合、包帯法、ギプス固定法
文書記録：診療記録、処方せん、指示せん、紹介状

4．研修目標

(1) 経験した方がよい主要疾患

骨折、捻挫、挫傷等の外傷

脊椎変性疾患（頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸椎後縦靭帯骨化症等）

変形性関節症、末梢神経障害等

(2) 研修すべき主な診断、検査法

骨関節のX線写真の読影、末梢神経の理学所見の検査法、各種関節疾患の徒手検査法

(3) 研修すべき手技、治療法

注射法、局所麻酔、関節穿刺、皮膚縫合、包帯法、ギプス固定法

(4) 関節鏡検査、腰部硬膜外神経ブロック法、理学療法各種（長期研修時）

5．研修実績

(1) 入院患者数：5名前後

(2) 救急外来患者数：数例/月

(3) 手術患者数：5-10例